



TITLE:

海外共同研究の概要: 北京師範大学 との学術交流

AUTHOR(S):

吉田, 正純

CITATION:

吉田, 正純. 海外共同研究の概要: 北京師範大学との学術交流. 子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして 2012, 活動報告書 (2007-2011年度): 110-110

ISSUE DATE:

2012-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179695>

RIGHT:

北京師範大学との学術交流

2006年6月5日、京都大学大学院教育学研究科と北京師範大学教育学院との間で学術交流協定を締結して以来、研究（教員レベル）・教育（院生レベル）の二つの方向で、教育学院と実質のともなう交流活動を行ってきた。2006年度は、6月に研究科から教員10人、院生10人が北京師範大学を訪問し、協定締結記念「日中教育学系合同シンポジウム」（院生分科会を含む）を開催した。同10月には研究科から辻本雅史教授が訪中され、集中講義を担当された。また、同じく10月には、張斌賢院長・李家永副院長が教育学研究科を訪問された。



▶2006年6月学術交流協定調印式

2007年度の学術交流事業としては、まず9月中旬に劉慧珍教授（教育学院高等教育研究所所長）が来学し、研究科の大塚雄作教授・金子勉准教授と共同で、集中講義「国際教育研究フロンティア」（通訳あり）を担当された。また11月には北京師範大学から教員4人と院生6人が来学し、11月6日・7日に「日中教育学系合同シンポジウム2007」を開催した。日中教員による全体会・教員分科会・院生分科会が実施され、院生分科会では、日中院生が二分科会において発表と質疑・討議を行った。同分科会は、2006年の経験を踏まえ、日中院生が事前に連絡を取り合いながら共同で企画・運営した。英語をメインにした活発な議論に加え、期間中の食事や観光など、様々なインフォーマルな交流



▶2007年11月日中教育学系シンポジウム

の機会も得られた。

2008年度は、12月3日～6日に、研究科から教員6人、院生3人、通訳1名が北京師範大学教育学院に訪問し、合同国際シンポジウムⅠ「現代日本の高等教育」（金子勉准教授・南部広孝准教授）、Ⅱ「学生の研究と生活：現状と課題」（辻本雅史教授・劉慧珍教授および両研究科大学院生）を開催した。また、大塚雄作教授が集中講義の講師を担当された。

2009年度は、7月には「国際教育研究フロンティア」として、教育学院より林杰副教授が来日され、本研究科の南部広孝准教授とともに集中講義を行った。講義では中国の大学における教員のアカデミック・プロフェッションの現状と課題について活発な議論が行われた。2010年1月には組織再編により拡大した北京師範大学教育学部において、周作宇学部長と国際交流担当の李家永教授との話し合いがもたれ、教員の相互訪問などの継続と発展が確認された。3月にも本学辻本教授・高見教授・渡邊准教授・南部准教授らが北京師範大学を再訪問し、周学部長・李教授をはじめ複数の教員・院生たちと会見をおこなう。ここでは学術交流協定の更新、および2010年に計画されている中国での高見教授の集中講義・大学院生交流などについて、具体的な意見交換を進める予定である。



▶2008年12月合同国際シンポジウム

このように、個々の専門領域において、両機関の教員による研究交流や共同調査・研究、研究プロジェクトなどの創造的活動が生み出されつつあり、院生同士の発展的な交流が着実に広がってきた。今後は大規模な組織改革を終えた北京師範大学教育学部と本研究科の交流としてさらなる発展を遂げるのが期待される。

（文責：吉田 正純）